

## もん せん まち 門前町として栄えた商家～座光寺のデパート街～

元善光寺(如来寺)や麻績神社から、座光寺駅まで続く参道沿いは、門前町として栄えていました。門前町とは寺院や神社に続く参道で、住民や参拝客に向けた商売で栄えた町のことです。参道沿いには旅館屋・飲食店・呉服屋・薬屋・酒屋・桶屋などあり、生活に必要なものなんでも買うことができました。

参道沿いに現在も残る「吉丸屋」の移転前後の2つの建物から、昔の商売の様子を思い浮かべてみましょう。

### 移転前の文具・桶屋「吉丸屋」

麻績神社の大鳥居の前に古くからの吉丸屋があります。すぐ近くに麻績学校があったこともあり、1975年(昭和50年)頃まで文具店を営みました。一階の入り口を入ると、文具の陳列棚があり、その奥と二階で生活していました。

また地階では桶屋も営みました。現在ではプラスチックや金属製の容器があるので桶をあまり見かけることはありませんが、昔は自分の家で味噌や漬物を作ったので、それを入れる桶や、風呂の桶、台所のたらいなど、桶は生活の必需品でした。

さらに1904年(明治37年)以前から座光寺まんじゅうの製造・販売を始めました。

### 移転後の座光寺まんじゅう「吉丸屋」

それから1923年(大正12年)に伊那電鉄(現在のJR線)が開通し、1925年(大正14年)に新しい参道ができ

たときに、元善光寺の前に移転しました。現在では、昔からの建物で、手作りの座光寺まんじゅうを販売するのはここだけになりました。

また1975年(昭和50年)頃まで井・麺類の飲食店も営みました。現在の仕込み場を調理場とし、二階を客間として使っていました。

### 変化した買い物方法

吉丸屋と同じように参道のほとんどの家が商売を行っていたので、お店を一軒ずつ回って対話しながら買い物をするのが楽しみであり、また近所付き合いの場になりました。しかし車社会になって遠くまで買い物に行けるようになり、またスーパーやコンビニなど、まとめてなんでも買える店ができたため、参道にお店が建ち並んでにぎわった光景は今では見られなくなりました。

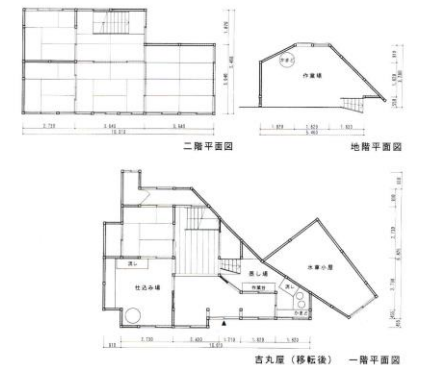
古い写真や、昔の生業を表した屋号で当時の面影を知ることができます。(金澤雄記)



大鳥居前の移転前の吉丸屋  
一階で文具店、地階で桶屋を営んだ。  
地階には桶を作った作業場があり、まだ工具や値段表が残っている。



元善光寺前の現在の吉丸屋  
地階の作業場(現在は一階)で仕込みをした生地とあんこを、一階の蒸し場で包み、蒸す。  
昔はかまどを薪で炊いたので、店の前には薪がたくさん積んであった。



まちや  
町家と農家

民家は「町家」と「農家」に分かれます。町家は街道沿いに隣家と接して建ち、正面(間口)が狭く、奥行きが広い長細い建物です。農家は農地に囲まれた広い土地に、隣の家と接することなく主屋などの建物が建っています。今でいうとマンションと一戸建ての違いと同じです。

主に、商家は人が集まる街道沿いに建つので町家であり、対して本棟造や養蚕民家は農家になります。

一般的な江戸時代の町家の特徴は、片側に奥まで土間があり、もう一方に窓の取れない暗い部屋が3~4室並ぶ細長い建物ですが、座光寺の参道には、道筋が何度も動いたため江戸時代の建物がなく、そうした町家が残っていません。

右図 典型的な町家の間取り 西澤家(松尾)  
通り土間に添って8室並ぶ、表側2室を高い場とする